

野蒜復興新聞

それぞれの再始動

5月30日、ついにJR仙石線が全線で開通しました。これにより、仙台市と石巻市からのアクセスの利便性が向上し、より多くの訪問者が見込まれます。また、東松島市内の方からも、「大病院に行っているが、イオン石巻まで嫁に送ってもらい、高速バスで行っていた。これからは一人で行くので嬉しい。」(80歳代女性・矢本運動公園仮設)、「36年間仙台に通勤しており、野蒜に車を止めていた。震災後は、松島駅まで車で行き、仙台に行っていた。全線開通で昔の姿に戻れ、やっと安心できる。(65才男性・川下地区)」といったような喜びの声も聞こえてきました。



▶ 運転再開した仙石線(写真は試運転時のもの)

JR仙石線と野蒜まちづくり協議会

野蒜まちづくり協議会役員会

5月15日、平成27年度第2回野蒜まちづくり協議会役員会が開催されました。まず、市の担当課より新しい野蒜市民センターについて説明がありました。平成27年度中に整備を進める方針とし、開所は来年夏頃を予定している旨の説明がありました。また、本役員会より新たに野蒜北部丘陵振興協議会の齊藤均会長と齋藤剣一副会長が幹事として加わることとなりました。先日実施された自治会の地区割りに関するアンケート調査結果について、野蒜北部丘陵振興協議会と調整しながら野蒜地域の住民へ配布する予定です。

野蒜まちづくり計画の策定へ向けて

野蒜まちづくり協議会では、野蒜まちづくり計画の策定へ向けて、動き出しています。野蒜まちづくり計画とは、現在、市が主体となつて策定中の総合計画に紐づく地区計画で、地区のまちづくり課題や将来像、まちづくりの目標と取り組み方針を示す計画です。6月中には野蒜まちづくり協議会役員の方々、関係団体、および一般公募で選出された野蒜地区住民で構成される委員会が発足し、第1回計画策定委員会が開催される予定です。また、計画に紐づくワークショップも企画中です。

野蒜まちづくり協議会

復興部会 新部会長 就任のご挨拶

平成27年3月11日、東日本大震災から丸4年が経過しました。被災された各地域においては、災害公営住宅の建設や、JR仙石線の全線開通等、復興の兆しが徐々に見られるようになりました。しかし、まだまだ課題は山積しており、野蒜地域も同様です。

これまで東名運河以北の都市計画や土地利用計画等に係る課題等を議論し、役員会を通して市へ要望書の提出や、住民説明会の開催要望をあげてきました。新年度は19名体制で、現状の課題の分かり辛い点、進んでいない点を共有できるように話題に取り上げて、真摯に取り組んで参ります。また、当復興部会では、実際に野蒜地域の復興に携わって頂ける部会員を随時募集しております。皆様方のお力添えを頂戴できればと思っております。共に野蒜地域の復興への道を行きましよう。



野蒜まちづくり協議会 復興部会会長 平田ひとみ

平成27年度総会開催

野蒜北部丘陵振興協議会



5月24日開催の総会の様子



5月24日、野蒜北部丘陵振興協議会総会が開催されました。本会には市関係課や協議会役員の他、今後高台へ移転される住民の方々71名が参加されました。本会において平成26年度事業報告及び収支決算報告、並びに平成27年度事業計画案及び収支予算案について協議を行い、すべて承認されました。また、本年度から発足の住所表記検討委員会が3月に行ったアンケートを元に検討された「住所表記は新しい地名(住所)をつけること、『野蒜』の地名(住所)は残し字はつけないこと、として公募を行い承認されました。

部会員募集中

高台移転部会
災害公営住宅部会

野蒜北部丘陵振興協議会の高台移転部会、災害公営住宅部会の両部会では随時部会員を募集しております。これまで当協議会では両部会、および役員会を通して高台のまちづくりルールガイドラインの策定や、災害公営住宅の基本設計等の要望を市へ上げてきました。また、仮設住宅団地や市民センターでの高台移転懇談会の開催等を通して、今後高台へ移転される住民の方々の声を協議に反映させてきました。是非、皆様のお力添えを頂戴したいと思います。共に、より良い高台のまちづくりを進めていきましょう。

お問い合わせ先はこちら
野蒜北部丘陵振興協議会事務局
東松島市移転対策部
生活再建支援課移転支援班
担当：齋藤
電話：82-1111
(内線1494)

住所表記の例

- 例1) 東松島市
〇〇野蒜
- 例2) 東松島市
野蒜〇〇
- 例3) 東松島市
〇〇野蒜〇〇

野蒜を知る旅〜おらほの駅〜

東松島市中心地の航空自衛隊松島基地、矢本太平洋戦争に突入した翌17年、旧海軍航空隊として矢本町に飛行場が造られた。「零戦」「月光」などが配置された実践部隊だった。これが敗戦により米軍機進駐して「キャンプ松島」と名称が変わり、29年に防衛庁に返されて操縦学校として再出発、T6練習機でパイロット養成が始まった。33年にはF86ジェット戦闘機のパイロット養成、その後、全国的に有名となったブルーインパルスの本拠地となる。(仙石線物語より抜粋)

鹿の夫婦が愛した地、鹿妻

石巻市にも同様の地名がある。その言い伝えによると、昔、牡鹿が渡波の根岸・鹿松集落にある山から牝鹿に会いにこの洞窟へ来ていたが、ある日、若い猟師が牝鹿を撃つて殺してしまい、その後毎夜牝鹿のいる方角に鳴き続けていた牡鹿もやがて息絶えてしまった。里の人達は大変悲しみ、牝鹿の骨とともに牡鹿を埋葬し松を植えた。このことから、牡鹿の里を鹿松、牝鹿の里を鹿妻と呼ぶようになったと言われている。この地には鹿踊りが伝えられている。(WEBより抜粋)

犬の恩返し、陸前小野

文化2年3月、生まれて間もない子犬が道端に捨てられていた。そこを通りかかった近在の長者菅原某は、可哀想にと拾って我が家に帰り、大事に育てていた。やがて、この犬は立派に育ったが、ある日野犬に襲われて腰骨をかみ砕かれてしまい、起き上がれなくなってしまう。そのうち長者は病に伏せて起き上がれなくなってしまう。下男下女達はこの犬を厄介がって小野駅宿に捨ててしまったのである。その後、この犬はビッコを引きながら、日光東照宮、伊勢神宮で何事か熱心に祈願する姿が目撃された。たちまちその日から長者の難病が快方に向かっていったと言われている。(仙石線物語より抜粋)

